

## 摂食回復支援食「あいーと」導入により食欲不振が改善した1症例

尾鷲総合病院 NST&CP Complex(NCC)<sup>1)</sup>

藤田保健衛生大学医学部外科・緩和医療学講座<sup>2)</sup>

世古容子<sup>1)</sup>, 東口高志<sup>1)2)</sup>, 加藤弘幸<sup>1)</sup>, 米田 健太郎<sup>1)</sup>, 小栗きくみ<sup>1)</sup>  
川口 恵<sup>1)</sup>, 大川 光<sup>1)</sup>, 大川貴正<sup>1)</sup>, 矢賀進二<sup>1)</sup>

【はじめに】高齢者は複数疾患を合併しており、咀嚼機能の低下をきたしている症例も多い。その対応として、刻み食、ソフト食、ミキサー食などを提供している。今回、酵素含浸法により素材外形を保持したまま口腔内での物性をコントロールできる摂食回復支援食「あいーと」を導入し食欲不振が改善した症例を経験したので報告する。【症例】80歳代男性。身長170cm、体重49kg、BMI17.0。心不全にて入院加療中、急性胆嚢炎を併発し手術目的で外科転科となる。脂肪制限5分粥刻み食を提供していたが、発熱、下痢を繰り返し食欲不振をきたしていたため「あいーと」試験導入を行った。【結果】導入開始4日目には5割の摂取が可能となり、試験導入終了後も7割摂取を維持できた。術後の経過は良好であり10割摂取となっている。【まとめ】咀嚼機能の低下に食欲不振が加わると、見た目の違いにより食事量が左右されることが考えられ、摂食回復支援食「あいーと」は、選択肢のひとつとして有効であると思われる。